

# 本願寺新報

hongwanji journal

## news

### 「平安」校歌カラオケで♪

「紫匂う 雲のかなた 希望の星の 燃ゆるところ」  
高校野球の甲子園大会でもおなじみの宗門校・龍谷大学付属平安中学・高校（京都市下京区）の校歌が、全国のカラオケシステム「D.A.M.」で配信されることになった。導入店は約20万カ所。

甲子園大会では勝利チームの校歌演奏が恒例。全国2位の通算103勝を挙げている「平安」の校歌を耳にしたことがある人も多いはず。同校は「重厚で懐かしいメロディーを卒業生や保護者だけでなく、多くの人に聞いて歌ってもらえたら」としている。曲名は「龍谷大学付属平安 校歌」。リクエストNO.6883-43。

## people

## ひと



おおた たかふみ  
太田 隆文 さん

映画「沖縄戦」の監督  
「未来考えるきっかけに」



宗派が平和学習の視聴覚教材として製作した映画「ドキュメンタリー沖縄戦」の監督。昨年12月に沖縄で上映会を開いて以降、反響を呼び、全国26映画館で上映中。米国「第15回ロサンゼルス日本映画祭」(10月1日～4日、今年はオンライン上映)にも招待されている。

映画は沖縄戦体験者の証言集。「多くの日本人は沖縄戦の全容を知らない。私もその1人だった。体験者本人の言葉から真相に迫りたいと撮影に臨んだが、高齢で面会ができなかったり、語りたくないと言口を閉ざされた人もいた。その中でも何人もが、つらい記憶を絞り出すように語ってくださった」。

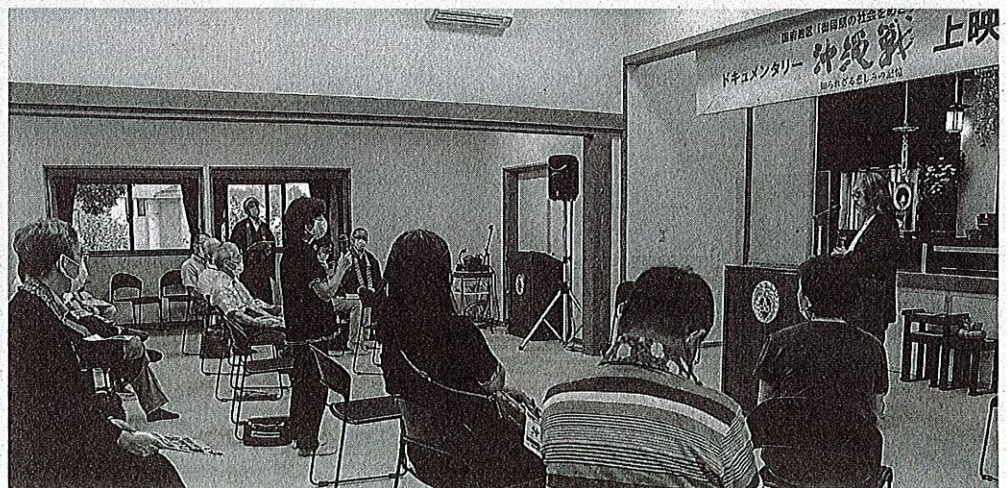
戦後75年、「この映画を通して、沖縄戦を知るだけでなく、教育、未来、幸せとは何かということを考えるきっかけにしていきたい」と願う。

奈良県斑鳩町・誓興寺寺族。59歳。(2面に記事)

2020年(令和2年)10月1日 木曜日

本願寺新報 掲載

## 宗派製作映画「ドキュメンタリー沖縄戦」 法要に合わせて4教区で上映会



「御同朋の社会をめざす運動」国府教区委員会は9月18日、宗派製作映画「ドキュメンタリー沖縄戦」の上映会を、国府別院(新潟県上越市)でのウェブ中継による第40回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参拝に合わせて行った。

平和学習の視聴覚教材として製作された映画は、沖縄戦を体験した12人の証言と沖縄戦研究者8人による解説、記

録映像で沖縄戦の記憶を克明に描いている。上映後には「沖縄戦」の太田隆文監督との語り合いの場が設けられ、「これまで沖縄戦について知る機会がなく、全体的によくわかった」「もっと多くの人に見てもらいたい」などと活発に意見が出された(写真)。

法要に合わせた上映会は、高岡、山口、鹿兒島教区でも行われた。(12面に関連記事)



# 平和宣言

いま世界は、現代人がかつて経験したことのない危機に直面しています。

昨年2019年12月、病原体が特定されていない肺炎が報告され、その後、新型コロナウイルス感染症と称されるこの病気が、瞬く間に世界中にひろがりました。現在までに死者数は約90万人以上のほり、いまなお感染の勢いは収まる様子を見せていません。

このようなか、歳月は人を待たず流れ、本年も9月18日を迎えました。本日この国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑において関係者が集い、第40回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要を修行了します。特にこの厳しい状況の中で、終戦75年という節目の法要を行うことこの意義を改めて考えることは大切なことです。

私たち浄土真宗本願寺派は、戦後70年にあたる2015年、「平和に関する論点整理」を発表しました。その中で、公平・

平等・信教の自由を含む人権の尊重・飢餓の克服・環境問題など、争いを引き起こす構造的な課題を解決することで成り立つ「平和」すなわち「積極的平和」の必要性を指摘しました。しかしながら、マスクや日用品を我先にと買い占める姿や、それらを転売する行為が報道されたり、感染者に対して苦しみを共有しようとする、その家族までも排除しようとする行為が話題になるなど、新型コロナウイルス感染症は、人間の内面に潜

む自己中心性をあらわにさせ、他のいのちの尊厳を冒す人間の無明煩惱がもたらす姿を改めて明らかにしています。専らご門主はご親教「念仏者の生き方」において、「テロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実を背いて生きる私たちの無明煩惱にあります」とお示しになりました。宗祖親鸞聖人のみ教えを、わかりやすく示されたこのご門主



石上智康総長

心通い合わせ、痛み分け合い、協力し合って生きていく先にこそ、  
苦難乗り越え、平和をより確かなものにする道が開かれていく

のお言葉は、いままさに世界中で起こっている差別や紛争、貧困や環境破壊など、これらの問題は自己中心的な心で行動してしまう私たち人間の内面にこそ、その原因があるとの鋭いご指摘と受け止めなければなりません。

またご門主は、同じご親教で「仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を『諸行無常』と『縁起』という言葉で表します。(中略)『縁起』とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあって存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません」とご教示になっています。

次のような俳句があります。「降りだして 田植えいよいよにぎやかに」

(長山秋生)

空と大地と水と、そのつながりの中で人も生きています。食材に恵まれ、無事、食べられる。水も喉を通ってくださる。そのお蔭で、いま生きてい

ます。人はみな縁起する事実の中で生かされ、いのちをらしめられているのです。しかも大事なことは、すべての現象は縁起していますから、変わらない固定したすがた・かたちは何もないということなのです。

ですから、仏さまのように完全にはできなくても、私たちは縁起というありのままの真実に教え導かれ、精進するのです。自他をわけ、かまえ、執われ、対立する心を限りなくおさえ、人と喜びや悲しみを分かち合うなど、日々精いっぱいつとめるのです。対立を排除ではなく、心を通い合わせ、痛みを分け合い、協力し合って生きていく社会の実現に向け共に努力する先にこそ、この厳しい苦難を乗り越え、平和をより確かなものにする道が切り開かれていくことでしょう。

本日、この同じ時に全国各地の寺院から、平和の鐘の音が鳴り響きます。鐘の響きに込められた私たちの願いが、世界へ、子や孫へ届いてゆきましょう、共に精いっぱいつとめてまいりましょう。